

## 優秀賞（国土交通事務次官賞）

### 〈作文（中学生）の部〉

#### 『常に心に防災意識を持つて』

栃木県矢板市立片岡中学校 三年 富本 菜月

「菜月、お父さんちよつと仕事の現場を見てきたいんだけど、お前も来るか？」

七月末の休日、珍しく父が声をかけてきました。休日だというのに、東日本大震災以来、父は忙しそうです。父が出かけてしまうと、私はひとり家で留守番です。地震も頻発していて怖いので同行することにしました。

父の作業現場に向かう間に、崖が崩れた所や、家や塀が倒壊した場所を何箇所も見ました。

「地震の傷跡がまだこんなに残っている。」

震災から四ヶ月以上が経っていましたが、直接にあんな惨状を見るのは初めてでした。私はショックで言葉を失いました。

そうしているうちに、父の作業場に着きました。父の仕事は土砂崩れを防いだり、崩れたところを直したりすることです。斜面安定工事と呼ばれ、主に斜面をコンクリートの法面で固める作業をしています。

「ほら、これがお父さんの現場だよ。」

指差す先には幅、高さともに二十メートルくらいの三段に整えられた斜面がそそり立っていました。見た瞬間美しいと思えました。同時に、見てきた崖崩れの現場が脳裏をかすめました。それを防いだり、修理したりして大勢の命を守る父の仕事を誇らしく感じました。

その日の帰り道、また地震の被害を目の当たりにしながら、「安全だと思っただけで生活していても、身の回りには多くの危険が潜んでいる」ということを深く考えさせられました。

そして、注意深く見たり、調べたりしてみると、私は本当に危険と背中合わせで暮らしてきたということが分かったのです。

まず、私の住む栃木県には、土砂災害が起こりそうな危険箇所がどのくらいあるのか調べてみたところ、三六八九箇所あり、危険度分類が一番高いAの箇所については、東日本で一番多い一七箇所もありました。自分の家は大丈夫なのだろうかと心配になりました。

県内の危険箇所の中でも特に驚いたのは、「関谷断層」という長さ約三十八キロメートルの活断層です。それが、なんと私たちが住んでいる矢板市のほぼ真下を通っているということです。断層が何らかの力でずれたときには、それだけで地震が起きます。また、他の震源地で地震が起きたときには、断層の近くの地域は被害が大きくなりやすいのです。現に市内の高台地域では、今回の震災で建物の倒壊や土台のずれなど大きな被害が出ました。自分の住む矢板市は、内陸部だからどこよりも安全と思っていました。が、大きな誤りでした。大震災の余震が続く今、崖崩れや地割れなどがいつ起こっても不思議はありません。

地盤が不安定だと、当然土砂災害にも注意が必要になります。そこでまず気になるのが、最近の異常気象です。今年記録的な猛暑で、それに伴う局地的な豪雨・雷雨が問題になっています。台風の大規模化や爆弾低気圧など、急激な水量の増加の原因になるような現象も増えています。私の身の回りでも信じられないような出来事がたくさんありました。わずか十五分ほどの雨で側溝から水があふれ出したり、学校の敷地の土がすごい勢いで削られてしまったり、学校近くの造成地では、大量の雨水が小さな川を作り、それがいつの間にか崖のようになっていたこともありました。近所の道路の拡張工事現場では、

せつかく整えた法面の土が雨の勢いであれよあれよという間に多量に流れ出てしまいました。それらが、大きな土砂災害につながっても何の不思議もないと私は感じました。

それなのに、その危険性を私たちはどれくらい認識して暮らしているのでしょうか。最近、大きな工場が近くに移転してくることに、私の住む片岡地区でも宅地造成や道路の整備が盛んに行われています。でも、土砂災害への備えが不十分です。緑のダムとなるべき森林は加速度的に姿を消し、茶色や黒の土がむき出しのままのところが目立つようになりました。しかも、激しい雨が降っても土が流れるのに任すだけです。このような取り組みで本当に災害が防げるのでしょうか。私は周囲の現状に大きな危惧を抱きました。

そのような現状の中で、私たちはこれからどうしたらよいのでしょうか。東日本大震災では水の怖さや土砂災害の怖さ、人智を越えた自然の猛威を、さらには原子力発電所の事故では人災のやりきれなさを私たちは身をもって体験しました。けれども私たちはそこから、今後生きていくために大切な知恵も学んだはず。それは、「小さな災害の可能性も見逃さない」という心がけを、一人ひとりが持つことが、安全に生活していくためには何よりも必要だということです。天災で起こったことは防げませんが、日々の心がけや備えて被害は最小限に抑えられます。つまり、人災は人の手で防げるのです。多くの犠牲を無駄にしないためにも、私は「常に心に防災意識を持って生活していきたい」と思っています。